

## 三条市教育制度等検討委員会最終報告 地域説明会記録（大崎中学校区）

- 1 日 時 平成20年5月20日（火）午後7時～午後8時20分
- 2 会 場 大崎中学校 体育館
- 3 参加者数 11人
- 4 報道機関 新潟日報社 三條新聞社 NCT
- 5 教育委員会出席者  
長沼教育委員 松永教育長 古川教育部長、池浦教育総務課長、駒澤学校教育課長
- 6 説明会次第
  - (1) 開会あいさつ 松永教育長
  - (2) 最終報告説明 池浦教育総務課長
  - (3) 質疑、意見等
  - (4) 閉会あいさつ 長沼教育委員
- 7 質疑、意見等の概要

### 発言者A

- ① **適正児童数** 小学校は12学級以上、中学校は9学級以上、これを学年に直すと小学校は2クラス、中学校は3クラス以上が望ましいということになるが、これを学級数ではなく児童数で見た場合は、どのくらいの児童数が望ましいのか。その見方に関しても、新潟県教委の1学年当たりの見方と、文部科学省の見方と数字が違ったような記憶がある。
- ② **教員免許** 小中一貫になった場合、小学校と中学校が今のよう形でないと考えた場合、教員免許で問題がないのか。例えば、4・3・2区分になった場合、中間の5年、6年、中学1年を見る先生の免許の問題はないのか。
- ③ **軽度発達障がい支援** 中一ギャップがこの中で一番大きくとらえられており、不登校の子供たちの非常に細かいところを見ていただき、子供たちのことをよく捉えており大変いい見方をしていると思っている。

その中で、ここには出てきていないが、最近のあるデータでは各クラスに平均的に1人はいるのではないかという軽度発達障がいの子供たち。なかなか協調性などのバランスがとれなくて、全体の授業の中に入り込めない子供たちがいる。これはもう小学校1年から言われている問題であるし、そういう子供たちに対する配慮を考えたときに、もう少しきめ細かく見ていただくものが出てくるのではないか。今のクラスの在り方の中で、三条市においてもスクールアシスタント等、教育補助員という形で非常に力を入れていただいていると思うが、そういう点において、この中でどのように見ていただくのか。これは適正規模とも絡んでくると思う。

**教育総務課長** ①適正児童数について、教育制度検討委員会の中では、適正規模についてはかなり時間をかけて議論されたが、適正児童数という視点での議論はなされていない。ただ、質問のとおり、国の基準と県が定める基準は確かに違いがある。国の基準は1学級40人で算出をしている。また、三条市では県の基準をとり、小学校1・2年生のみ1学級32人で算出している。特に、適正児童数についての議論はなされていないが、この児童生徒数が基本的な基

準である。

**学校教育課長** ②免許について、小学校と中学校の両方の免許を持っていれば問題はない。小学校の先生が中学校で教えることはできないが、中学校の教諭が自分の持っている免許の教科を小学校で教えることはできる。ただ、校種の関係があり、兼務発令を県に申請し、承認を得る必要がある。

**教育部長** ③軽度発達障がいの子供について、質問にもあったようにスクールアシスタント、特別支援教育指導員については、昨年度から更に増員して今年度に臨んでいる。全国平均6.3%の子供がそのような傾向があるというデータもあり、今の教育の一つの重要な課題になっている。最終報告書にも、LDやADHDの発達障がいについて触れられている。私も小中一貫教育に関して先進校を訪れると必ずこの問題についてお聞きするようにしているが、発達障がいの子供の教育に関しては、小学校で教えている先生と中学校で教えている先生が連携されて、特に進んだ学校については相互に報告し合い自然な形で連携していけるという回答であった。小中一貫教育に限らず、三条市教育委員会としても力を入れていくべき課題であると思っている。

#### **発言者B**

① **小中卒業の区切り** 小中一貫の9年間で3つに分けるわけだが、例えば今の小学校1年生は9年後の中学3年で卒業という形になるのか。それとも前期・中期・後期と、前期で入学して卒業して、また中期で入学してというような形になるのか。

② **学校行事** 運動会とかの学校行事のやり方は、やはりまた前期・中期・後期というような形で行われるのか。

**学校教育課長** ① 4・3・2で区分するというのは、あくまでも指導の中での基準であり、学習指導要領は変えないので、国の規定により小学校の課程は6年間で小学校を卒業するときに卒業証書が出る。また中学校卒業時に卒業証書が出る。9年目に出るという形ではない。

② 行事関係で、指摘されているのは、高学年になって学校のリーダーとして活躍しているが、一貫になるとそういった活動での成長の場が減るのではないかというようなことだと思う。そういったことも含めて、これから小学校と中学校の先生が、お互いのカリキュラムを9年間でそういった活動の場を保証していくことになると思う。今、私が想像するには、小学校は小学校の中でやはり運動会はあり、その小学校の運動会の中に中学生が関わってくる。中学校の中に小学生が関わってくる。そのように考えていただければよいと思う。またそういった部分についても、これから小中の先生がお互いに協議をしながら決まっていくものと考えている。

**発言者A** 学校規模の適正化や通学区域の在り方の説明があった。中1ギャップの問題、不登校の問題について、このような会を持って地域住民に説明いただけることに感謝する。

① **幼保小連携** 中1ギャップの問題が言われるとともに、小学校へ上がる段階での問題も大きい。さらに発達障がいといった要素もある。中1ギャップは、中学校で起きるのではなく、小学校に入学した段階から起きている。小中一貫の話をする前に小学校に上がる以前の幼稚園、保育所との連携が必要だ。このことをまず要望する。

② **不良行為** 数年前にある中学の保護者から、下校時に小学生からお金を取る恐喝まがいのこ

とがあったと聞いたことがある。なぜ先生に言わないのかと聞いたら、そんなこと当たり前すぎて、言ってもしょうがないという回答であった。小学校と中学校が一緒になると、そうした問題点、心配はないか。

③ **中学校でのリセット** 新潟市内の小学校長を定年退職された方が、卒業式を経て違う校舎へ通うことは、子どもたちにとってリセットが利く利点があると言っていた。小学校でいじめにあっても中学校でリセットされ、うまく作用することがあるという話を聞いて、今の小中学校の在り方も考える必要があるのではないか。

④ **適正規模** 大崎小学校は、児童数の大変多い学校である。一時期は1,000人を超えた市内有数の大規模校である。少し古い数値だが、旧三条市内の小学生の17%から18%を占めていた。続く一ノ木戸小学校が1~2%少なかった。一番少ない学校は、旭小学校で全体の1%程度である。四中学区の井栗小、保内小を合わせても10%ぎりぎりと思う。

適正規模のことを考えると、旭小、井栗小、保内小の地区を見る必要があるのではないか。今回、統合型のモデル地区となった南小、条南小、四日町小が、子どもたちにとっても先生方にとっても、ある程度バランスがとれたと規模と言えるのではないか。これらの学校が小中一貫のモデルとなったことは、残念である。

⑤ **中高一貫** 中高一貫は、全国的にも増えている形だと思う。全国で2,000を超えている。中高一貫には大学の進学率というはっきりしたものがある。燕市では、市民の側からも燕高校存続の目的もあってできたものと思うが、そこへ行きたいという子や親が選んで行く。

⑥ **学校選択制** 小中一貫については、品川区が始めたものだが、学校選択制にしても、都内のように交通手段はないし、スクールバスも使えない。親が送り迎えをすることになることを考えると、現実的には難しいと思う。そうした中で、市内にモデル校を1つ作って、市内どこからでも来てくださいというものであれば、全国的にも新しいスタイルでモデルケースとなるし、親としてもそうした選択肢があることは大変ありがたい。

**教育部長** 最終報告の説明会に当たり、私どもとしては、小中一貫をやると決めたものではない。まずは地域の皆様のご意見をいただき、先ほどの提案の内容などを含め、検討することが大前提である。また、各小中学校33か校を説明に回っている。そうした中、先生方の前向きなお話をいただきながら、疑問にお答えしながら、最終的に小中一貫を行うかどうかを教育委員会に判断してもらう。

① 最終報告では、中1ギャップの問題のほか、小1プロブレムの問題も書かれている。指摘のあった幼稚園、保育所、保育園から小学校に入る段階で、子どもに落ち着きがない状態が見られる。これには発達障がいのある子どもへの支援も問題も絡んでくる。

三条市教育委員会としても、幼保小の連携は大きな課題であると考えており、この4月に子育て支援課を設置し、福祉、保健サイドのセクションを教育委員会に入れ、小中学校、幼稚園の守備範囲を保育所、保育園まで広げて行政を行う体制となった。子どもの教育や子ども全般の行政を一元的に、同じ組織の中でやりたいというものである。4月に発足したばかりで、種々調整をしているところだが、幼保小の連携にも対応していけるような工夫を考えているところだし、子ども未来委員会も立ち上がり、力を尽くしていきたいと考えている。

② 小中が一緒になることで問題も起こるのではないかという心配だが、これまでも小中学校の連携は、各学校の実状に合わせてなされてきた。発達段階に応じた指導について、小中学校の教員が同じ校舎にいれば、更に連携することにより、生徒指導上の対応もできる。しかも、ともすれば小学校は小学校、中学校は中学校だけの対応から、小学生と中学生の絡む問題も改善していける可能性も広がるのではないかと考えている。

いろいろ組み替えによって、メリット、デメリットは出てくる。また、ある小中学校のペアでは起こることが、別のペアでは起こりにくいこともあると思う。ただ、一緒の校舎にする、連携、併用とあるが、地域の皆様と詰めていき、学校に期待することも詰めていきながら、練り上げていきたい。

③ 小中学校のリセットについて、リセットすることで新たな気持ち、友達との出会いもある。しかし、統計的に学校に行きづらくなる子どもたちが増えていることは、重く受け止めている。そのために、このシステムの導入が有効であるとすれば、それを軸とした検討が出てくるものと思う。

④ 適正規模の話だが、下田、栄、三条地区でも様々な地理的条件もある。多い学校、少ない学校もあるが、通学距離や地域の実状、歴史があるので、算数をするように配置し直すことは、事実上できない。できるなら本当は、あまりいじらない方がいいと思う。変えるにしても、地域の意見を十分いただきながらとなる。

最終報告書では、一中学区と三中学区をモデル校としてはどうかと提言されているが、私どもとしても重く受け止めている。その中で、構成する学校の適正規模等の問題もモデル校の中で研究されるものである。

⑤ 中高一貫については、適否をコメントする立場にないが、様々な自治体に取り組んでいる。小中一貫教育は、すぐさま大学進学に結びつくものではないし、その評価には時間がかかるものである。ただ、小中一貫教育の先進校では、短期間ではあるが非常に効果が上がっていると聞いている。義務教育段階で、学力はもちろんだが、しっかりとした人間としての基礎、基本を養う時期に充実した学校生活を送れるかどうかにかかっている。単に、有名な大学に進学できたかではなく、子どもにとって重要な部分となる。

⑥ 小中一貫に挑戦する自治体は、ある意味トップランナーであると自負している。品川と三条では違いがあるかもしれないが、決して大都会だけが取り組んでいくテーマではない。様々な実状を踏まえ、地域の皆様と相談し、条件的にそろっていない部分は今後の検討課題としながら進める価値がある。

もちろん、学区制、学校選択制の問題も意見をいただきながら考えていく問題である。ちなみに、一体型の学校を新築して小中一貫を進めている学校の回りの人口が増えている、その学校に行きたいというニーズが高まっているところが、選択制を導入していない自治体でも実際にある。施設面もあると思うが、学校職員が非常に熱心で、例えば小学校の先生が板書をしながら、後ろで中学校の先生がフォローするなど、たくさん見てきた。きめ細かい教育が、ソフトとして展開できている。こうしたことが、あいまって人気、効果が上がっている。このようなことが実現できるのであれば、検討する価値がある。

**教育長** 新潟市の教職員経験者の方が小中連携の一つの懸念として、卒業式が一つのリセットになるという話があり、確かに今までそういう区分で動いてきたわけなので、それはあると私は思う。

しかしそこで問題なのは、やはり教職員の意識として、後は中学校に任せたよというようなことで、今まで小学校と中学校が一緒になって9年間の一つの期間で子供を育てようという意識が少し欠けていたのではないかということだ。9年間を一緒のスパンで考えていければ、小学校から中学校への段差を少なくでき、もう少しスムーズにいけるのではないか。

私どもが今考えているのは、小学校と中学校の段差を低くして、教職員がいかにして共通意識を持って子供たちを育てていくかということである。そうしたことをやっていけば、これから効果があるのではないかということ考えているので、ご理解をいただきたい。

それから、中高一貫に関連して、学校選択制、そして小中一貫校をつくるのであれば、全市のモデルとして作ってはどうかというご意見だったと思う。これも一つの貴重なご意見として承っておく。しかし、品川や大きな都市は交通機関が発達しているし、また人口密度もあり、直ぐ近くにいろいろ学校がある。そういう地域性と、三条市の人口密度は東京に比べたらはるかに少なく、通学距離等の問題もある。中高は中学生になっていてある程度大人だが、小中は多くの小学生の通学距離等の問題もある。そう考えると、選択制で小学校からやっていいのかというのも一つの問題があるのではないかと考えている。

それらの色々な問題点はあるが、それらについてまた地域ごとに検討をしていただければと思っている。その中で、三条市の一つの方向性が生まれてくれればありがたいと考えている。